

2012年10月13日(土)開催 | 基盤教育研究分科会

## 世界に広がるオープンコースウェアの実態とその可能性

『世界に広がるオープンコースウェアの実態とその可能性』参加報告

(レポート HRDM 会員 山岡敏夫)

最近巷で話題となっている iTunes U では無料の教材コンテンツが多数公開されています。このような無料の教材コンテンツは総称してオープンコースウェアと呼ばれます。今回はこのオープンコースウェアを題材に、日本オープンコースウェア・コンソーシアム(JOCW) 代表幹事 福原美三氏から世界の動向や日本の現状をご講演いただきました。参加者は、やや少なめの9名でした。



講演内容として、前半では OCW(Open Course Ware)や OER(Open Educational Resources)といった言葉の概念や、OCW/OER の歴史的変遷、海外のOCW 動向を、後半では日本の OCW 現状、海外の最新情報をお話頂きました。ご講演を聞いて、日本の教育は海外と比較して2歩も3歩も遅れている。更に、これから5年10年の間に教育のあり方がドラスティックに変化する可能性をヒシヒシと感じました。



## ◆OCW・OER

オープンコースウェアが世の中に出始めてから約 10 年が経過し、世界では 200 以上の大学から 20,000 以上の科目が公開され今なお拡大しています。2012 年 6 月 UNESCO(国際連合教育科学文化機関)が世界 OER 会議を開催し、2012 パリ OER 宣言が採択されました。国際的に OCW/OER の活動が勢い付いているとのこと。現在、活動が盛んな国は、先頭を行くのが OCW 発祥地のアメリカです。2 番手は以外なことにスペイン。スペインでは 2004 年に国内コンソーシアムが発足しました。このコンソーシアムに対して大手銀行が活動資金を援助しているとのこと。無償教育を普及させることにより人々の教育レベルが上がり、その事が経済を発展させ、最終的に銀行にプラスになる事を狙っているとのこと。アジア圏の国々(特に台湾)の活動も活発とのこと。

OCW の源流をたどると、発祥は 2000 年に MIT で提案され、2001 年から William & Flora Hewlett 財団の助成金を受けて活動が開始されたそうです。先ほどのスペインの例もあるように普及活動をするにはそれなりに(直接リターンを求められない)資金が必要なのだなと感じました。一方、OER は 2002 年に UNESCO が開催したフォーラムで提案された概念/用語とのこと。

お話を聴いていると OER は OCW を包含したもっと広い領域をカバーした概念のようです。OCW は無償の教材を指し、主に大学が正規講座で一般に公開されている教材をさすとのこと。勿論、大学とは限らず企業が公開する場合もあるそうですが、まだ数は少ないそうです。OER は、教育(能力 UP)に効果のある資源(例えば受講者同志のコミュニケーションなど)も含まれる概念のようです。

<参考>

MIT による OCW の定義 <http://ocw.mit.edu/about/>

UNESCO OER の定義 <http://bit.ly/SxFcgh>

## ◆OCW・OER 活動の変遷

OCW・OER 活動の変遷は以下の5つの Phase に分けられるとのこと。

Phase-1 講義ノート of 公開

初期の OCW は、先生が講義で配付する資料を公開している程度のものでした。日本で、著作権の問題がありあまり普及しなかったそうです。

Phase-2 リッチメディア化(講義動画配信)

モバイル環境に対応した OCW (代表は iTunes U)、アメリカでは大学が人気講座を公開し優秀な新入学生の獲得や卒業生とのリレーション強化に利用しているそうです。

### Phase-3 学習コミュニティ形成

Web サービス(Open Study など)を活用して同じ講座を受講している者どうしコミュニケーションが取れるようになった。その学習者コミュニティが学習者のモチベーションを維持して学習を最後まで継続させることに寄与しているそうです。

### Phase-4 スキル・達成度認定

学習者のスキルアップを認める事が含まれた。現状その認定が社会的証明になるかは疑問だが、OCW+認定制度の普及率によっては効力がでてくる可能性があると感じました。

### Phase-5 Big Date・Global Scale

MITx に代表される MOOCs(Massive Open Online Course)の登場。

Phase1 - 2 は、教育を配信する側に主眼が置かれていましたが、Phase3 以降は学習者側に主眼が移り、Phase4, 5 では学習者が学習した事を認めてあげるという更に高次へ移り変わってきたそうです。

## ◆MIT の OCW

セミナー内で紹介して頂いた MIT OCW は MIT で実施されている講義内容が無償で公開されていて、講義によってまちまちですが、講義ノートだけでなく小テストや試験内容まで公開されているそうです。OCW 公開により MIT 内でも教育内容や教授法の改善に役立っているそうです。また、在学生の 90%、卒業生の 50%が OCW を利用しているとのことです。NET を介した OCW は、時間や場所の制約をうけずに何回でも受講できるのがメリットです。NET 経由なので、海外からのアクセスも可能です。MIT では海外の優秀な学生を集めるためにも OCW を活用しているとのことです。なお、OCW への利用用途を絞った寄付金も 1 億円集まったとのことです。

## ◆OER University

OER の学習者が公式の単位認定がもらえるような仕掛けを提供するコミュニティ(協調集団)も形成されていて、オーストラリアやカナダ、アメリカの大学が中心となり活動を進めているとのことです。単位認定制度なので講義内容が身に付いているかのアセスメントがあります。そのアセスメントに合格後、認定料金を支払うと晴れて単位認定をいただけるとのことです。この仕組みは素晴らしいと感じました。学習した成果が認められる事は最後までやり切るモチベーションに繋がります。更に、就職時の評価ポイントにまで発展すれば普及に拍車がかかるのではないのでしょうか。

## ◆さらなる発展(MOOCs)

Princeton や Stanford、MIT や Harvard など著名大学がこぞってオンラインで単位認定を行うプログラムを公開し、世界中から受講者が集まっています。一例では、2011 年秋に実施された 2 つのコースで約 20 万人の受講者が集まったそうです。凄い規模です。これだけ多くの受講者が参加するため、そこから集められた学習ログ(学習時間やドロップアウト情報、テスト採点情報)を分析して、より良い教育コンテンツ作りや教授法に役立てることを狙っているそうです。今流行のビックデータに対応します。

数年前、書籍「フリー」が話題となりましたが、まさに教育にもその流れが押し寄せようとしてきています。普段、教育を提供する側として脅威を感じざるを得ない状況です。これから 5 年・10 年で、教育のあり方が大きく変わる兆候を OCW・OER に垣間見ることができました。この変化の中においても教育提供側に求められる事は何かを考える良い切っ掛けとなりました。また、教育を受ける側としては選択肢が増え良い事かと思いますが、自身に必要な能力を見極める力や多くの選択肢から自分に最適な教育を選ぶ力も必要になってくると感じました。

<b>開催日</b>	2012 年 10 月 13 日(土) 14:00~17:00
<b>学習テーマ</b>	オープンコースウェアの実態とその可能性 2003 年、米国MITからスタートしたオープンコースウェアの実態と課題に関する情報提供を行い、その可能性について全員でディスカッションする。
<b>学習目標</b>	2003 年、米国MITで開始されたオープンコースウェア(大学や大学院などの高等教育機関で行われた講義情報を、インターネットを通じて無償で公開する活動)が、現在、世界中の大学に広がっている。 その実態と課題に関する情報提供を行い、オープンコースウェアの可能性について全員でディスカッションする。
<b>講師</b>	日本オープンコースウェア・コンソーシアム 事務局長 福原美三氏
<b>会場</b>	明治大学 駿河台キャンパス 紫紺館 S4会議室 千代田区神田小川町3-22-14 <a href="http://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/access.html">http://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/access.html</a>
<b>定員</b>	35名 (※最低催行人数:5名) 開催1週間前までにお申込人数が、最低催行人数に満たない場合は、中止とさせていただきます。予めご了承ください。
<b>参加費</b>	会員: ¥2,000- / 回(税込) 非会員: ¥8,000- / 回(税込)
<b>開催概要</b>	2003 年のMITのオープンコースウェア(以下、OCW)の本格的開始に端を発し、多くの米国大学がOCW活動を進めている。 現在では、その動きが全世界に広がり、スペイン、中国、韓国、日本においても

様々な大学がその活動に参加し、コンテンツをOCWとして提供しています。

今回のわ談会では、OCWの歴史と世界的な流れを概観するとともに、日本オープンコース・コンソーシアムが、2006年より実施している調査結果を基に日本国内の活動実態をご紹介します。

そして、これらOCWを企業内教育の教育リソースとして、どのように活用していけばよいか、その可能性と課題について全員でディスカッションします。

- 支払方法と領収書発行** ■支払方法:当日会場受付時に現金支払  
■領収書発行:領収書をご要望の方は、お申し込みの備考欄に「領収書要」と、ご記入ください。会社名(学校名)欄にご記入いただいた宛名で用意いたします。なおそれ以外の宛名をご希望の方は、お申し込み備考欄に、宛名を明記ください。
- キャンセルについて** 申込後のキャンセルは、早めにご連絡ください。開催の5日前より以下のキャンセル料金が発生いたします。なお、キャンセル料に関しては、後日請求となります。
- ・開催5日前～3日前のキャンセル料は、参加料の50%
  - ・開催2日前～当日のキャンセル料は、参加料の100%
  - ・連絡なしの不参加は、参加料の100%